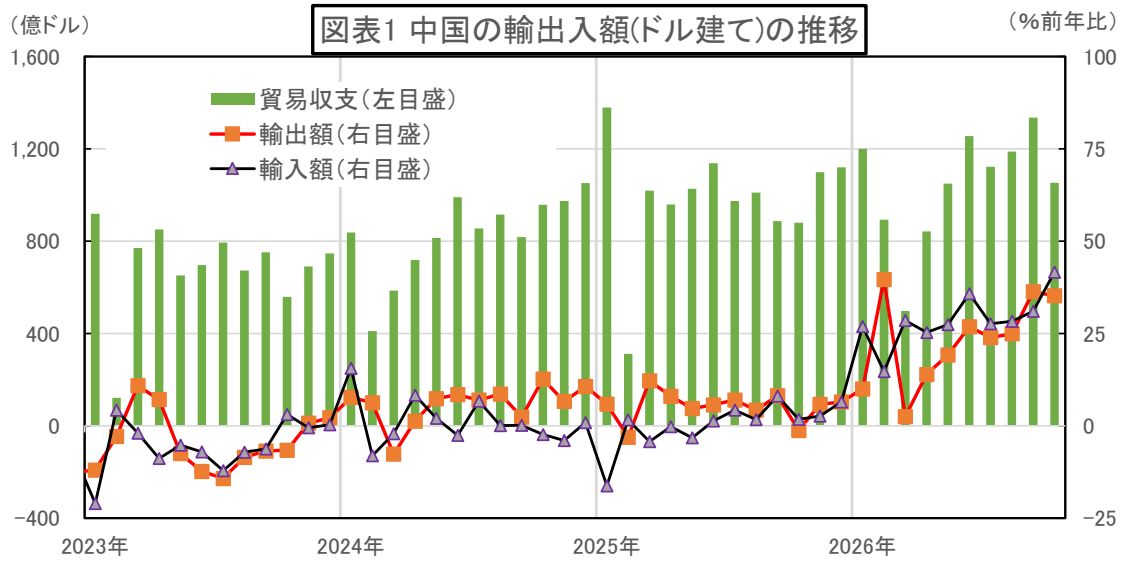
リサーチ＆ソリューション第１部　王 雷軒

（中国）10 月の輸出は鈍化も堅調さを維持、輸入は価格上昇で高い伸び

中国海関総署が 11 月 10 日に発表した 10 月の貿易統計（速報）によると、10 月の輸出額は 4,123 億ドル、前年比 35.2%となり、9 月（同 36.3%）から小幅に鈍化したものの、引き続き堅調に推移している（図表 1）。堅調さを維持した背景には、海外需要の拡大、AI ブームを背景とする半導体関連製品の対韓国輸出の好調、輸出価格指数の上昇などが挙げられる。こうした要因に加え、2025 年 10 月の輸出が比較的低調だった反動（ベース効果）もあり、輸出額は市場予想を上回った。

図表1 中国の輸出入額(ドル建て)の推移



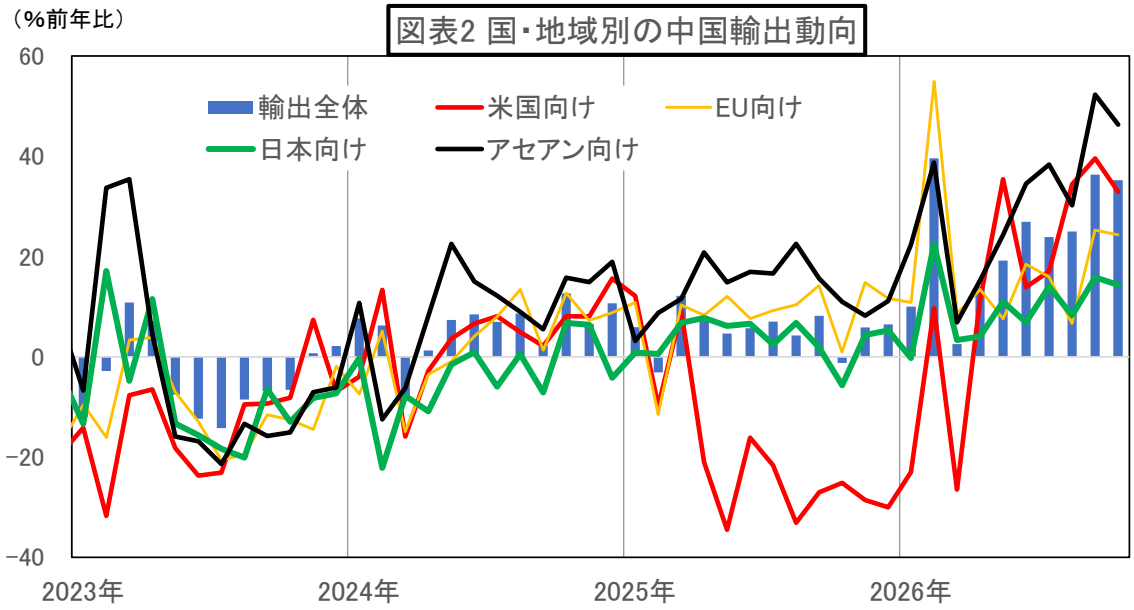
（資料）中国海関総署、Windより作成、直近は26年10月。

品目別にみると、10 月の集積回路（IC）および自動データ処理装置・同部品の輸出額は、それぞれ前年比 137.1%、同 114.8%となり、いずれも 9 月からさらに伸びが加速した。両品目だけで輸出全体の伸び率（前年比 35.2%）を 13.6 ポイント押し上げた計算となる。ただし、IC については輸出単価が前年比 143.0%上昇した一方で、輸出数量は前年比▲2.4%と減少しており、輸出額の大幅増加は主として価格上昇によるものであった。AI 関連需要の拡大と価格上昇が輸出額を押し上げている一方で、数量ベースでは伸びが限定的であり、輸出の高い伸びは依然として価格要因への依存度が高いことを示している。

一方、自動車輸出の伸びは鈍化した。中欧間の自動車貿易をめぐる通商交渉への対応として、一部自動車メーカーが輸出を前倒ししたことなどもあり、10 月の自動車輸出台数（シャシーを含む）は 110.8 万台と 5 か月連続で 100 万台を上回った。しかしながら、輸出台数は 9 月の 118.0 万台から減少した。その結果、輸出額も前年比 37.6%と 9 月（同 62.0%）から低下した。加えて、衣類、靴類、かばん、おもちゃ、家具などの労働集約型消費財の輸出も底堅く推移したものの、9 月からは伸びが鈍化した。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

国・地域別にみると、韓国および台湾向け輸出が引き続き高い伸びを示した。これは主として世界的なAI関連需要の拡大によるものである。また、中南米およびアフリカ向け輸出は回復し、新興国市場におけるインフラ整備需要と工業化需要が引き続き輸出を支えた。一方、米国（前年比32.9%）、ASEAN（同46.3%）、EU（同24.3%）、日本（同14.3%）向け輸出の伸びはいずれも9月からやや低下したものの、依然として比較的高い伸びを維持した（図表2）。



（資料）中国海関総署、Windより作成、直近は26年10月。

米通商代表部（USTR）は11月6日、中国製品に対する301条関税の178品目の適用除外措置をさらに2か月延長すると発表した。中国側も11月9日、対米追加関税24%の実施停止をさらに2か月延長し、10%のみ維持することを公表しており、年内の米中貿易摩擦は一定程度緩和する可能性がある。一方で、地政学的リスクや海運会社による供給調整を背景に、コンテナ運賃指数は高水準で推移している。今後もホルムズ海峡の航行障害、欧州・地中海地域での港湾ストライキリスク、海運会社による減便などが想定されるため、輸送コストは高止まりすると見込まれる。また、急速な人民元高の進行を抑制するため、中国人民銀行（中央銀行）は11月3日、金融機関の外貨預金準備率を2ポイント引き上げた。米連邦準備制度理事会（FRB）は10月に利上げを見送ったこともあり、人民元は引き続き上昇傾向で推移している。

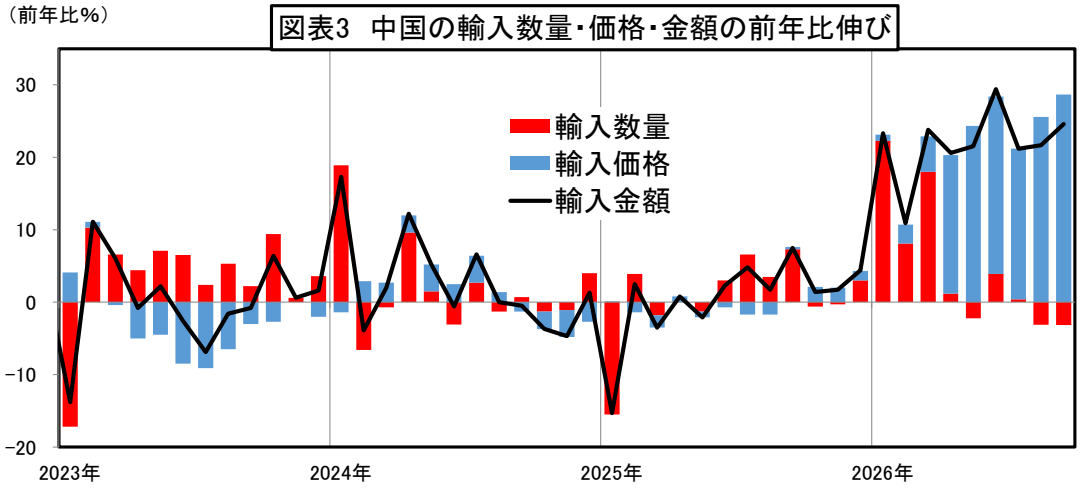
これらのほか、世界的なAI関連需要は引き続き中国の輸出を下支えするとみられるものの、需要減速、半導体価格の上昇ペースの鈍化が中国の輸出を押し下げる可能性がある。現在、世界のAI関連投資はなお拡大局面にあり、データセンターの整備や関連設備需要は引き続き増加すると見込まれる。米国の一部地域では、中間選挙後の政策見直しを背景にデータセンター建設に対する規制強化の動きがみられるが、これは一部プロジェクトの承認や立地に影響を与える可能性はあるものの、2027年に予定されている投資計画全体への影響は限定的であり、世界的なAI投資拡大という大きな流れを変えるものではないとみられる。

以上を踏まえると、AI関連輸出は引き続き輸出全体を下支えするものの、価格上昇効果は徐々に一巡する可能性が高い。さらに、ベース効果の剥落に加え、通商摩擦などの下押し要因も想定されることから、2027年の中国輸出の伸び率は、緩やかに減速し、前年比7%～10%程度になると予想される。

一方、10月の輸入は価格上昇の影響を強く受け、輸出を上回る伸びとなり、10月の貿易黒字（1,053億ドル）は9月（1,335億ドル）から縮小した。10月の輸入額は前年比41.6%となり、9月（同31.0%）から大幅に加速し、市場予想も大きく上回った。高い伸び率となった背景には、価格要因

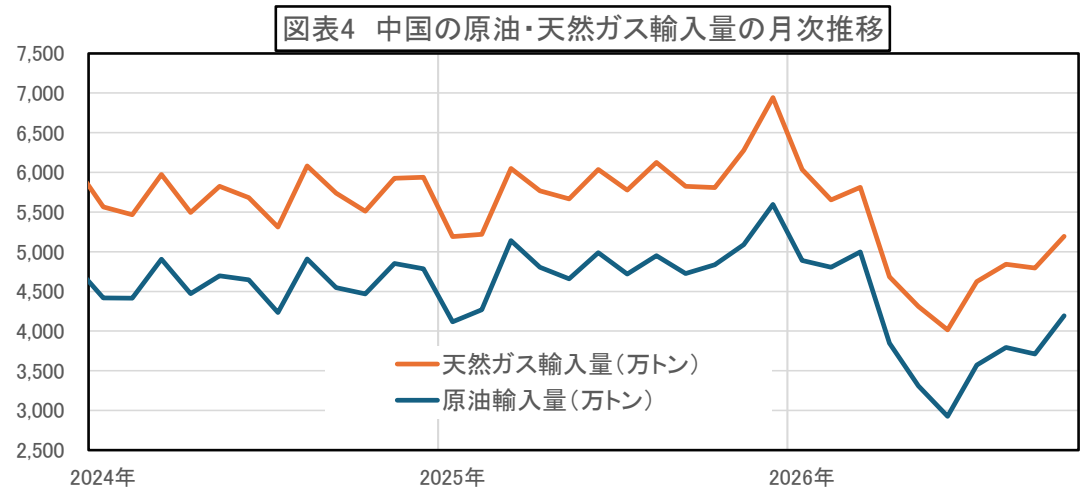
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます https://www.nochuri.co.jp/

が引き続き大きかった(図表 3)。10 月の集積回路および自動データ処理設備の輸入額はそれぞれ前年比 78.3%、同 261.0%となった。このうち、集積回路の輸入単価は同 78.2%上昇した一方、輸入数量はわずか同 0.1%にとどまった。



(資料)中国海関総署、Windより作成、直近は26年9月、人民元建て。

また、中東情勢などの地政学リスクによりエネルギー供給の不確実性が高まり、国際エネルギー価格は大幅に上昇した。国際原油価格の上昇を受けて中国の原油、石炭、天然ガスの輸入単価はそれぞれ前年比 62.6%、同 69.4%、同 46.6%上昇した。一方で輸入数量は、原油同▲13.3%減、石炭同▲5.5%、天然ガス同 2.4%となっており、エネルギー輸入額の増加は主として価格上昇によるものであった(図表 4)。



(資料)中国海関総署、Windより作成、直近は26年10月。

このため、輸入額の増加は実需拡大よりも価格上昇要因による寄与が大きいと考えられる。国家統計局が発表した製造業 PMI は 10 月に再び景況感の判断基準となる 50 を下回り、鉄鉱石や農産品など国内需要との関連が強い品目の輸入は依然として弱含みであり、内需の本格回復はまだ確認されていない。

総じてみれば、輸出はやや鈍化したものの依然として堅調であり、外需は中国経済を下支えしている。このため、政府が掲げる 2026 年の成長目標(前年比 4.5～5.0%)の達成可能性は引き続き高いとみられる。他方、内需については今後の政策実施効果と需要回復の状況を引き続き注視する必要がある。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます https://www.nochuri.co.jp/